

夜間保育

平成23年

2月10日 発行
11-1

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区東淡路2-7-5 保育所あすなろ内
全国夜間保育園連盟 事務局長 枝本信一郎
電話 06-6321-3955 Eメール asunaro@rokoukan.or.jp

平成22年一月の沖繩大会から八カ月後、8月28日(土)～8月29日(日)の二日間にあつて北海道帯広市の、ホテル日航ノースランド帯広で第23回全国夜間保育園経験交流研修会が、園長や職員、行政関係者、研究者など146名が参加し開催されました。一日目、開会式に、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長様が出席され、また、北海道および帯広市他、保育団体の皆様から夜間保育への力強く熱意のこもったメッセージを頂きました。

引き続き保育課長より行政説明が行われ、次世代育成支援の構築に向けて緊急課題である「保育をめぐる国の動向と課題」を、丁寧にご説明を頂きました。続く特別講演では大阪市立大学教授山縣文治先生により「夜間保育制度の歴史と展望」と題して、夜間保育制度立ち上げの経緯や、26年度の保育制度改革に向けて夜間保育所として生じるであろう問題点を明らかにしつつ、夜間保育園連盟開設当初からかわられているお立場で熱く講演していただき、より充実したものにまりました。

第23回 全国夜間保育園経験交流研修会 帯広大会報告号

2日目は文教大学教授の櫻井慶一先生の「夜間保育利用状況アンケート」に基づいた調査報告があり、地域社会のセーフティネットの一つとしてなくてはならない役割を夜間保育所が担っている重要性を報告されました。引き続き分科会に分かれてテーマごとに研究討議が行われました。第1分科会では、園長・理事等を中心に、櫻井先生を助言者に迎え、混迷している保育制度問題と今後の夜間保育の課題について、熱心に討議がされました。特に単立夜間保育所の保育園経営の危機感など悩みや問題が提起されました。第2分科会では、札幌夜間保育園の斉藤先生をコーディネーターとして「夜間保育園利用児の日中取り組みの実践と課題」をテーマに、各園の実践事例を通して保育の質の向上について話し合われました。

第3分科会では、「夜間学童児の支援と対応」をテーマにだん王保育園の信が原先生を助言者に迎え、成長を見越した就学支援のあり方や夜間ならではの配慮などの助言を得て、各園の事例を基に研究討議が行われました。第4分科会では、栄養士、調理員、保育士が集まり、十勝郷土料理研究会の村田先生を助言者に、「食文化の伝承」地域性を生かした給食」の事例発表がされました。又、北海道の食材を使った給食メニューの調理実習では、とちかち鮭つくねや、あずきスープなど北海道ならではの食材を使った献立で盛り上がりました。全体報告会では、夜間保育においては就労時間の保障に限らず、日中時間の育ちの保障が欠くべからざることであることや、深夜にかかる場合、親への子育て支援が重要な課題であることが報告されました。多数の夜間保育園関係者が最後まで熱心に参加され有意義な研修会となりました。以上、今回の研修会を通じて、夜間保育に携わる者として知識及び技能を更に深めなければならないことを、参加者が心に強く認識した大変実り多き研修会であり、今後の夜間保育の推進並びに子育て支援の内容充実に役立つものと考えております。

夜間保育は昼間保育とどう違うか

連盟会長 天久 薫

今回、子ども・子育て新システムの基本的方向（案）では、新システムにより実現されるものとして、「多様な働き方、ニーズに応じ、多様なサービスを独立した給付類型として創設」するとし、多様な給付メニューとして、家庭的保育、小規模サービス、短時間利用者向けサービス、事業所内保育サービスとともに、早朝・夜間等保育サービスを挙げ、それぞれの類型ごとに事業者を指定し、指定事業者がサービスを提供するとしています。少しずつ、今後の夜間保育の方向性が示されようとしています。

さて、昨年1月、経験交流研修会を那覇市で開催しましたが、その中で、昨年の全国夜間保育園利用者調査の報告を受け、夜間保育の存続・充実を図るために、夜間保育と昼間（一般）保育との違いを明確にするとの意図で、緊急アンケートを実施しましたが、それらも読ませていただいたうえで、私なりに夜間保育と昼間（一般）保育との違いを述べてみたいと思います（以後、夜間保育園を「夜間」、昼間保育園を「昼間」と略す）。

1. 「夜間」と「昼間」の違いの第1は、「夜間」は母子家庭の占める割合が多いことです。当園でも、母子家庭（父子家庭を含む）の割合は35%、併設の「昼間」のそれは21%で、明らかに違います（H22.2.1現在）。

母子家庭は、母親の就業において、子どもの病気等による急な休みがあるため、技術・資格等があっても不利になる場合が多く、時間帯の不利（昼間でなく夜間）、賃金の不利（低所得）、勤務時間の不利（長時間）、さらに育児の不利（家事、育児の負担不可）は否めません。

2. 働き手がひとりしかない単身家庭は、両親共働きの家庭に比べれば、相対的に低所得になります。違いの第2は、母子家庭の多い「夜間」には低所得層が多いことです。また両親がいても夜間働かざるを得ない家庭には、低所得層が多いです。当園でも、「夜間」と「昼間」を比較すれば、その傾向は顕著です（今回は紙面の関係でグラフは省略）。

3. 低所得層が一般的な生活を維持しようとするれば労働は長時間になります。違いの第3は、低所得層が多い「夜間」には長時間保育の子どもが

多いことです。これも、当園での「夜間」と「昼間」を比較すれば、一目瞭然です（上記同様グラフは省略）。

4. 「夜間」には単身家庭が多く、長時間保育の子どもが多いので、「夜間」の保護者は仕事と家事に追われ「昼間」に比べて育児に充てる時間が少なくなりがちです。「夜間」は「昼間」よりも、子どもへのきめ細やかな手厚い保育をしなければなりません。

5. 「夜間保育の子どもへの影響及び今後の課題に関する報告書」の結果では、子どもの発達には、保育の形態や時間帯ではなく、保護者に相談相手がいるかどうか、保護者が育児に対する自信を持っているかどうか、が強く関連していました。夜間保育利用者には、生活リズムの違いもあり、また単親家庭が多いので、相談相手もいなくて育児に自信が持てない保護者も多いようです。「夜間」では、保護者への就労保障に止まらず、保護者への特段の子育て支援をしており、保護者の愚痴を聞く、相談にのる、助言する等の時間が多く、「昼間」よりも相談機能が大きいです。

6. 「昼間」では、親の就労保障、子どもの命の保障、子どもの育ちの保障を同時並行して行うことができますが、「夜間」では、子どもの育ちの保障のために、親の就労時間ではない午前中からあるいは午後から子どもを登園させ、①昼型の生活リズムの確立と、②育ちの保障（教育保障）を、意図的に行わなければならない。

7. 「昼間」の給食はおおむね1回ですが、「夜間」の給食は昼夜2回あり、ほとんどの子どもが2回食べます。よって、育児放棄等の虐待に対して「夜間」は昼夜2回食べること

で「昼間」よりもセーフティネット機能が大きく、社会的養護性が高いです。

8. 「夜間」には夕食を食べさせてもらえない夜間児童保育が制度上整備されていません。

9. 太陽の下に過ごす「昼間」と、外は暗闇の中、蛍光灯の下で過ごす「夜間」では、子どもの情緒の安定度が違います。夕食前後は、「昼間」の子どもにとっては親子団欒の一日中で最も楽しい時間帯ですが、「夜間」の子どもは親子で過ごさせません。



よって、「夜間」では、「昼間」より多くの保育士数を配置しています。

以上、夜間保育園と昼間保育園の違いを簡単に述べてきましたが、読まれる方によっては、違和感のある違いだったかもしれません。それは、全国の夜間保育園が一律ではないからで、地域の実情に応じて保育がなされているからです。

夜間保育には4つの類型があります。夜間保育の基本時間は午前11時から午後10時までですが、①基本時間型、②午前11時以前の延長型、③午後10時以降の延長型、④朝も深夜も延長型の4類型です。今後の夜間保育園は、類型の違いにより、方向が異なっていくかもしれません。

【第一分科会報告】

連盟副会長 枝本信一郎

先の沖縄・大阪大会で出された夜間保育の要点は、

① 午前の小学校に向けた幼児保育の充実
② 昼夜二食の給食

③ 夕食の後から深夜就寝時にかけての子どもを安心を保証するための、保育士の配備を含む保育内容の充実

④ 多様な生活形態を持ち、孤立した状態で育児を行う保護者に対する幅のある育児支援などであるが、行政側からの「こども園」という提案に主要ポイントは、

・ 幼稚園＋夜間保育サービス
・ 独立した事業

・ 午前保育の支援は充実する形になる：これは、一見、行政への要望はかなり実現したように見えるが、親支援や夜間保育の現場が持ち続けて来た福祉のマインドなど、夜間保育の核となる部分が欠落しているような不安がある。疑問の提出と討論は活発に行われたが、では具体的に何をどうすべきか、これまでの夜間保育の継承に必要な物は何かについて

は、十分に詰め切ることができなかった。行政としては状況を見極めつつ年明けの通常国会に法案が提出される予定で、今年中に法案は作成される。随時園長会等を開催しつつ、夜間保育で我々の持ってきたマインドをどう継承するシステムとしていくのか、今後とも提案、研究していくということで第一分科会は終わった。課長の行政説明と山縣先生の講演内容からは、今度の制度改革はどっちに向かうか全く不明であった。

今回の帯広では、先の沖縄大会、あるいはその前の大阪大会で出された夜間保育の要点をふまえ、午前の小学校に向けた幼児の保育の充実、それから晩ご飯、昼夜二食食べること、晩ご飯を食べるところあたり、及びその後の時間帯の子供の安心と、そういう深い安心を得られるための、保育士の配備を含む充実した保育内容がある。それと深夜の、夜寝る子供らの安心した保育というのが夜間保育の要点ではないかと…。

多様な保護者、またしんどい中で子育てする保護者の様々な支援をやってきた経過から、在園児含む親支援など幅のある支援が基本の要望だった。今回こども園という幼稚園と保育所が一緒になったような、新たなサービスに移行するとこ

ろで夜間保育サービスという別の事業を足して規制すると言われている。これで午前保育の支援の充実が決まったようなもの。夜間保育サービスは、独立した事業になるそれなりに充実するだろう。要望したことはかなり実現したように見えるが、親支援や福祉のマインド抜けてしまう。疑問の提出は活発にできましたが、何をしたらいいかわからん。

我々が今まで夜間保育の中でやってきた中身をどう継承していくかを詰めきれないまま時間切れ！

今後状況を見極めながら、随時園長会等を開催しながら、夜間保育の思いを継承するシステムとしていくのかということ、提案、研究していくということ、第一分科会は終わりました。



【第二分科会報告】

札幌市大通夜間保育園

斉藤聡子

―夜間保育園利用児にとつての日中取り組みの重要性、日頃の取り組みを通して―

45名が参加、初めに夜間保育所ドリームの山田先生、帯広すいせい保育所の高瀬先生から発表がされ、午後からグループ協議で日中の取り組みの様子、重点を置いている箇所、その中の課題など、各園での保育状況に関する情報、意見交換、アドバイスなど、活発な意見交換が行われました。

内容は、主に各園の日中の取り組みの様子、何に重点を置いているのか、またその中の課題、例えば、こういうことをどうするのか、職員の配置が難しいとか、そういう難しさ課題などをそれぞれの保育状況についての情報交換をし、それを通して各園のがんばりや悩みをお話頂きアドバイス、助言を中心に、かなり活発な意見の交換の時間となりました。

特に、夜間保育においてよく言われる家庭的保育とは一体どういうことなのか、家庭と家庭的とは違う、保育園における家庭的とはどういうことかなど、結論は短い時間ではできなかったのですが、それぞれが子ども一人ひとりのことを思つて、やっていくこと、その中で、各園手段は色々であるけれども、（うまくやっつけていけるような？）保育が家庭的保育に繋がっていくのかなという話にもなりました。

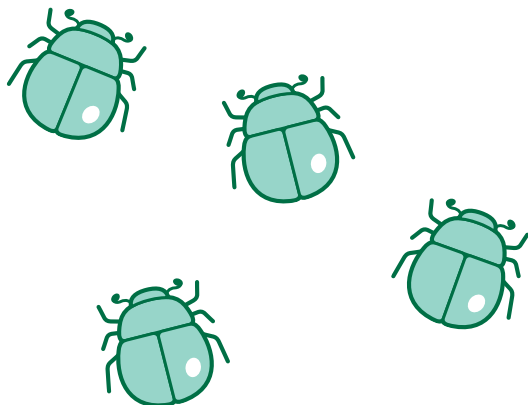
夜間保育所ドリームの山田先生より、家庭的な雰囲気保育を基礎としながら、併設の昼間保育園との交流も通して、日中の活動や生活リズムの確立に力を注いでいらつしやる様子を発表していただきました。

すいせい保育所の高瀬先生から、より家庭に近い場所を目指した保育実践の中から、食事や入浴等を例に挙げて説明していただき、フロアと両園との質疑応答が交わされました。

午後からは、就学までを見通し、子どもたちのよりよい育ちを保障することができる日課の工夫や、それと連動する職員配置の苦労など、地域性・開所時間・定員数・併設か単立か等の違いはあつても、全園が、子どもたちの安全な生活と

健やかな成長を目標に、日中の取り組みにも重点をおいて日々奮闘されている様子が、それぞれのグループで活発に話されました。

昼間夜間を問わず、子どもたちが快適で充実した園生活を送れるよう、各保育所がさまざまな家庭支援も行っています。しかしながら、手厚い保育サービスが、必ずしも保護者の養育力の向上につながるとは限らず、延いては将来、子どもにとつて不利益な状況を生むことになるかもしれません。本来に意義のある家庭支援とはどういうものか、今後の大きな課題をあらためて確認し合う分科会となりました。北から南まで地域も保育状況も各園の方針も多岐に渡るが、子供の幸せを願い一生懸命やつているという状況は同じであり、夜間保育の結束力を感ずる、いい研修会でした。



第三分科会

【成長を見越した支援・夜間学童への思い】

すいせい保育所

高橋 修一

午前中、だん王保育園とあすなる夜間保育所の発題を受けて、午後はグループ討議に移行し、各園での現在の取り組みやどのようなことに課題を感じているのかを話しあった。

だん王保育園の渡辺先生から、だん王保育園の歴史とともに（後述）子どもの成長発達における夜間就寝の大切さなど、保護者に伝えて一緒に取り組んでいく思いが報告された。

あすなる夜間保育所の河野先生からは、学童保育という場所で子どもたち自身で自分で考えた取り組みをさせ、自分たちの力を育くませることを課題に、昼間保育から「帰宅」することをイメージした「おうち保育」の中で、学童児は夕方以降の時間帯の活動をこどもたち自身の「くじら会議」で決定していく取り組みが報告された。

発題後グループ討議に入り、各夜間学童保育の現況を踏まえてさまざまな意見が出されました。

*収容状況や利用者のニーズ、利用時間帯などが大きく違う中で、保護者への子育て支援の必要性。

*小学校の学童保育（PM5:00）後に夜間学童に移動して親の迎えを待っている。

*冬になると校庭に夜水をまいておくと、翌朝にスケートリンクになつていて、子どもたちは大喜びでスケート遊びに興じることができる。

*夜間子どもが一人で留守番をするのがマンション契約で違反であるので来ている。

*母子家庭で夜間母親が働いているので、母と夕食後夜間学童へ来て泊り、翌朝お迎え後登校する。

*家庭事情が複雑、多様化しているので、アドバイスにも自分自身が「これでもよかったのか」と悩むことが多い。

*「夜間保育園を卒園したからといって、仕事を変更することが出来ないの、夜間学童があると大助かりです」という保護者の声は夜間職員にとってほっとする言葉でした。

今回の参加園の中では、午後9時までに帰宅するケースがほとんどでしたが、学校へ行く子どもたちはどうしても睡眠不足になるので、成長ホルモンを分泌させるためにも遅くても10時に就眠させなければならぬと思います。24時間体制の中で、園で寝る子にとっても個人別のお布団で先生が必ず部屋にいる等、部屋を暗くしながらも1人寝の孤独感を感じさせないような工夫が必要です。まだまだ子どもを取り巻く環境はきびしく、家庭・学校・学童・地域が四角のつながりではなく、子どもを囲んで丸いつながりになり、少しでも子どもにとって安らぎの場が多くなるように、あたたかな環境で子どもを育てていけるような社会になつてくれればと痛感しました。

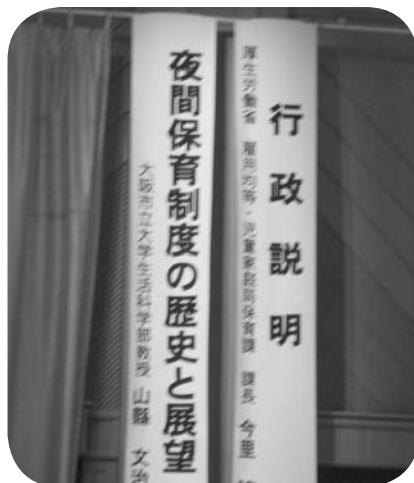
最後に信が原千恵子先生の、子どもは四年生、五年生になつてもその存在を認めてもらいたがつている。抱きしめて自分の存在を好きになつてもらい、自尊心を高めてやり、そうすることによって子どもの活力が生まれてくる、そういった感情を大事にしてほしい。

子どもにとって親にかわるものはありません。少しの時間でも肌のぬくもりが感じられるような時間の持ち方をアドバイスしたり、時には子どもの代弁者として、

厳しい言葉を親にしないでほしいなという現実もあるという、長年の経験と信念に基づいたアドバイスをいただきました。



参加者の声



*全国の沢山の施設の所長先生・先生方のお話をきかせていただいて大変勉強になりました。保育や親支援の悩みなど、自分だけではなく皆思っているんだ頑張らなくては……と励まされました。子ども、そして親御さんの気持ちを受け入れながら、子どもものよりよい成長のために頑張っていきたいと思いません。

*初めて参加しましたが、他の夜間保育園の方々から色々な話を聞くことができて良かったです。

*全国の夜間保育園関係の人達と交流が出来る研修会に参加することが出来てとても良かったです。実行委員の方々、お疲れ様でした。充実した研修を受けることができました。ありがとうございました。

*夜間保育所といっても時間帯が色々あったり、単独かそうでないかによっても違いがあり、とても勉強になりました。また研修会に参加したいです。

*大変お世話になりました。執行部役員の方々、地元すいせいさん御一同様に謹んでお礼を申し上げます。しっかりと求心力を願い上げます。北海道のこの会の関係者の皆様本当に有難うございました。

*とても楽しかったです。全国には色々な夜間保育というものがあるんだなと感じました。たくさんの人と話せて、これからもつながりが持てる場を作って欲しいと思いました。お疲れ様でした。

*初めて研修会に参加したのですが、全国色々の場所での夜間保育園の話聞いたので勉強になりました。





*保育士として、子どもに、保証してあげたい活動や生活と、保護者側に立つたときに、受け止めたことがありますが、どのように考えていたら良いのか、優先していったら良いのか……と、沢山の人の話を聞いて今後の課題を感じました。係の先生方、お疲れさまでした。

*夜間の職員でしか分かりえない、夜間だからこそ分かりあえる悩みを話し合えるよい機会だと思っています。年一回が残念です。地域をせばめてブロック大会などしてみるのもいいのではないかと

と思いますが、皆さんお忙しいので難しいでしょうね。

*今回も楽しく参加させて頂きました。他園との情報交換も出来すべく勉強になりました！懇親会での子ども達の踊りも、とても可愛らしかったです。事務局のスタッフの先生方、準備等お疲れ様でした。

*重保育の現状を知ることができました。大きくなって知識がついたり、思春期を迎えたりする分、関わり方、保



育の仕方を変える必要があるし、学校や家庭との連携もしっかり取っていかねければならないことを改めて実感しました。ありがとうございました。

*夜間保育での様子を聞くのはとても勉強になりました。互いに話が出来る場はいいですね。全国での話は地域で色々違いもありますね。とても良い研修でした。ありがとうございました。

*大変勉強になりました。またこのような機会があれば参加したい。講演も分科会も交流会(料理・余興)どれも素敵な内容、勉強となりました。有難うございました。

*夜間での問題・悩み、また自慢できることなど意見交換ができて有意義な時間になりました。ありがとうございました。今回初参加でしたが、夜間保育所

といっても形態は様々であっても同じような悩みを抱え日々を過ごしている方が沢山いることを知り、励みになるなと感じました。準備等で帯広の先生方は大変だったと思います。ありがとうございました。

*初めての参加でしたが、とても楽しくそして大変勉強になった研修となりました。他の夜間保育園での取り組みや先生たちとの交流もとれ、とても良かったと思います。ありがとうございました。



だん王夜間保育園発題骨子

だん王保育園は、戦後の混乱期の中子どもたちの生活を安定させる為に昭和25年開園されました。

児童福祉法では、8時から4時までの保育でしたが、開園当初から8時から6時までとしました。けれどそれではどう

しても働けない保護者のために、夜8時・9時まで子どもを預かりました。子どものために、生きていくために、そんな働く親のために独自で行っていた夜間保育が昭和31年全国で初めて京都市の特別保育事業として許可され、だん王夜間保育園となりました。当初は学童も措置内に入っていましたが、乳児の入園が多くなりいつの間にか措置外となりました。夜間保育園を卒園した子どもたちが家で一人でいなければならない実情があります。そのために、無認可の学童保育を始めました。

保育園の年長組の間に、就学についての話、小学校を生き生きと過ごす為には、朝方の生活習慣を身につけ午前中からしっかりと頭を覚めさせることが大切であり、夜型になると寝る時間が遅くならず成長ホルモンの分泌にも影響し、朝

起きられなくなり、午前中ぼーっとして勉強が楽しくない、すぐイライラする等、悪循環に陥ってしまうという話をしています。

夜間から昼型の移行をするための工夫が持てるかどうか、就学前に夜間の保護者に踏み込んだ話もしながら子どもをとをまず第一に考えられるよう、働きかけています。

しかし、今まで夜9時10時まで夜間保育を必要としていた児童にとつて、物騒な世の中、小学生になったから急にひとりで留守番をさせるといふわけにはいきません。そこで原則9時までということ、夜間学童を行っています。9時までというのは、学校・学童と子どもたちの日々のストレスは知らず知らずのうちに溜まっていき、9時ならば家に帰ってお風呂に入って話をしたり、明日の学校の準備ができ、少しでも早く寝ることができのではないかと思うからです。

こういった日々の積み重ねが子どもにとってどれほど大切か、理解してもらうことも必要です。

学童保育は、ひとりひとり異なった行政区から来ており、学区がまちまちで、学校の様子や友だち関係など受け入れの把握がむづかしいです。

園内の生活だけでなく、社会とのつながりを多く持つためにも地域の行事への参加や、グループで近所のスーパーにおやつ作りの材料を買いにいったり、公共のマナーを身に付けるためにレストランへ食事をしに行きます。

夏には地藏盆や戦争展に参加、また、近くの神社のお祭りの夜店に行ったり、夜桜、蛍狩り、お月見など、四季折々の行事を大切にしています。

夕方5時以降は夜間保育室に移り、0歳から8歳まで大きな家族の一員として生活します。その中では小さな子の面倒を見たり、遊びを教えてくれたり、恒例のきもだめし大会では、学童の子どもたちが中心となって進めてくれました。そうする中で「お兄ちゃん・お姉ちゃんたちはすごいなあ」という憧れのまなざしが、学童組の子どもたちの自信となつていきます。ただ、幼児の付随ではなく学童の精神年齢に合った遊び（オセロ・チェス・マンガ等）も考慮しています。

学童保育は、ほっとする空間であるとともに、外から帰ったら手を洗ったり宿題をする習慣などつけることも重視し、いずれは一人で留守番をしなくてはならない時をみこした長い目を持って自立の

習慣をつけ、保育園から家庭へもどす橋渡しの役割でもあります。

私たち保育園が努力と工夫を重ね、家庭的な夜間保育を行っていてもあくまで「的」であつて、家庭にはなりません。

また現在不況という中、就労形態が多様化し、深夜に及ぶ勤務が必要な職場が多く存在するという動かしがたい現実があります。そんな中でまず私たちのそばにいる子どもが家庭で、また地域の中で居場所を見つけられるよう手元にいる時に働きかけていくことの必要性を感じ、またお父さんお母さんが仕事を終え、夜間保育に迎えにこられた時、「おかえりなさい」というあたたかい言葉と雰囲気、仕事と親との切り替えが出来る。という言葉聞き、夜間保育の持つ役割を今一度考え、ただの預かりであつてはならないと痛切に感じています。

園長のところには保護者・卒園した保護者から夜10時、時には深夜に及ぶまで子育て相談の電話があります。保育園の持つ役割には、養護と教育という大きな柱があるとともに、あたたかな保育士集団がその礎でなくてはならないと、改めて感じています。

渡辺 トク江

【第4分科会まとめ】

食文化の伝承、

地域色を生かした給食

すいせい保育所

新谷 功

第4分科会は午前の部は地元十勝の郷土料理研究家 村田 ナホ先生の指導による調理実習、午後の部は各園で抱えている大きな問題点でもある、一日2食をいかにして提供するか、地場の物をどのような形で給与するのと言う事について、それぞれ意見を出し合いアドバイスを受けました。

午前の部では「小豆の冷製スープ・十勝鮭のつくね・チーズ入り芋餅・小豆入りでんぶ餅・人参とヨーグルトのゼリー」を調理実習で作り、ゼリーとでんぶ餅は他の部会の人にも試食をしていただきました。普段から作業をし慣れている方が多く次々と美味しい料理が並びました。また、レシピにあることだけでなく色々な会話の中から集団給食に適した作り方や応用方法などもそれぞれのグ

ループにおいて話されていたようです。村田先生からも一つの型にはまることなく臨機応変に対応出来る事が子供達の間、に適應した食事が出来るので物事に固執することなく楽しみながら食事作りをして欲しいと言われていました。時間の設定がずれてしまい他の分科会より1時間ほど遅れ込んでしまいました。参加者みんなが「美味しいものを作る」という気持ちが強く笑顔で調理実習を終えました。

作ることが終わり会食をしている間も、色々な意見が活発に出され応用すること(自施設に適した味及び材料の配分など)も明日につながるための実習の形だった様に思います。

午後の部においては、夜間保育所(園)の特色とも言える1日に2食の食事と1回のおやつとの給与をしているの難しさを中心としてはなされた。限られた時間ではありましたがとても皆さんから沢山の意見が出され充実した時間を共有出来たのではないかと思います。

各園からは、今、2食給与していることにより見えてくる子供達の様子が話されました。昼間からの延長型保育園は、夕食を軽い物を基本に献立を作り、帰宅後に親と一緒に夕食をとる時間を大事に

しているとのことでした。

22:00を過ぎて降園する子どもは、園で食べる食事が一日の最後の食事になるので夜中にお腹を空かせる事もあり、3食中の2食の食事バランスをどのようにするかと言う悩みも出てきました。また深夜型・24時間型においては、夜中から早朝に、つれて帰る途中コンビニに寄ってつまみなどを買い、それを一緒に食べたり飲んだりし、夜が明けた頃に寝ついている様なこともあるとのこと。この他、様々な事例と合わせて各園の対応も一緒に話されました。

深夜型では親が子どもと一緒に食事をしている時間を取れない状態にあっても、無理に手を出さず、自分で出来る様になるまで見守り、手を差し伸べることをしているようです。

具体的には、各園少しでも早く子どもを保育園に連れてきてくれる様に働き掛けたり、保育園に子どもを連れてきてくれたら、後は保育園が頑張りますよ。子どもの事は、大丈夫だから気持ち落ち着けて笑顔で居てくださいと伝えて、全てを抱え込まない様に、まずは(子どものための)親支援からであり、その為にも親との信頼関係作りがとても大切になってきています。

2食に対しての全国の統一した栄養摂取基準はあっても使える施設と使えない施設があることが確認され、自園に合わせた独自の基準なり家庭に合わせた給食形態が求められていました。

村田先生から自分の知っている恵まれた環境の子供たちにも、夜間保育所に通ってきている子供たちにしても共通のことが言えると思います。今の親はとも忙しく自分や周りをいたわる気持ちの余裕が無く大切な子が子に対しても、かまうてあげる余裕がまったく無く見えます。また、何時も子どもに100点を求めてしまっているようですね。昔の親は100点を取ることよりも家の手伝いを通して生きていくための方法をゆつくりと伝えていた様に思います。時代が違っていると一言で片つけるのではなく、急がずあわてずの言葉に日本の昔からの好い伝承があったのではないかと思います。これからは親に急ぐことなくゆつたりと気持ちを持つことと、あなたは一人ではなく回りを見ると人はいるよということ伝えていってほしいと思う。100点をとる事よりも思いやりの気持ちを持つて生きていくほうが将来的にいい結果につながり充実した人生が送れると思います。との話で結ばれました。

★経験交流研修会 アンケートから

【今後どのような内容の研修を望みますか？】

- * 保護者支援の取り組み・親支援のあり方：夜間保育における子どもの育ちなど、夜間保育の機能を活かすために取り組んでいる活動の実践研修
- * 夜間学童、小学校との連携について
- * 職員のスキルアップ研修会（新任・中堅別各地域で、何回かに分けてステップ・アップ方式で。）
- * 全体会を短くしてもう少し、参加者が話せる機会を増やして欲しい。二日目の閉会を一時間くらいすらすらなど：
- * 第一分科会の出席する人数が少なくと思います。次世代の園長も（昼夜含む）参加して共に考えて欲しいと思います。
- * 夜間保育所の時間帯の違いの幅の大きさに、話の視点がズレることが少し残念です。延長型の園と深夜型の園では、根本の違いがあるのかもしれない

* 分科会で他園の取り組み、姿勢をしることができて良かったです。グループ討議では驚きや共感しながら話し合うことができました。行政説明、興味深く拝聴しましたが、国の動向を受けて、何をすべきなのか教えて頂けたら……と思います。

* 交流の場としては、有意義な時間でした。地域性からくる課題、共通する課題を共有とすることで、自分自身の振り替りとなったと思います。ただ、分科会においてももう少し学びの場となる研修内容になればと思います。

* 夜間保育所勤務ではないのですが、地元開催なので参加しました。色々な勤務体制の中で、全国の方々が悩みなが



らも前向きに仕事されているのだと実感しました。子どもひとりひとりの事を想い、保育するという事は、夜間でも昼間でも、その他の施設でも、同じなのだと思います。

* グループ討議の時間を長めにとったり、他園を見学または体験型のものがあっても、勉強になると思います。

* 夜間保育で作成しているカリキュラムの具体的な内容の意見交換が出来たら良いかと思えます。

* 保育士の経験交流という面では分科会のひとつをケース研究的内容で各園の抱えている子育て、子育てのしんどさを分かちあい、具体的な支援のアプローチのハウトゥなど共有してはいか

がでしょうか。

* 同じ悩みを持った保育士同志での意見交流の場などがもっとあると嬉しいです。

* 地元では深夜間までしている認可の保育が無許可しかなく、市の指定の研修へ行っても夜間の子どもや保育園は別世界の様な扱いを持たれている為、毎夜間保育の研修に参加することで同じ悩みや思い、アドバイスが頂け、気持ちのお土産を持たせてもらえるので、とてもありがたいと思っています。今後も実のある研修を期待しています。

【新しい保育制度について】

* 制度の変更を受け、夜間保育所としてどう対処していくかについて改めて研修を行なって欲しい

* 子ども園に向けて各園が共通認識できるように、夜間保育園の方向性を制度の中に位置づけしていく為の勉強会を早い時期にと考えます。

* ニーズと現状という点では、今回のように、実体に基づいた話が聞けて良



かったです。今後、更に必要とされていることは何か？ という話がまた聞けると良いと思います。

【各地域・各園での取り組み】

*園で改善して是非みんなに勧めたいことがあったら知りたい

・デイリーや夜、夕食後の遊びや過ごし方について、今後も様々な園での取り組みや悩みなどを話し合えると勉強になると思いました。

*様々な地域の方たちと、話をしたり、悩みを相談し合えるような研修や、グループ討議など他の地域の方との話を

する機会を多くして欲しいです。

【昼間の保育との連携】

*日中保育士との意見交換会のようなもの

*科会でテーマを持って、それぞれの園（地域）の話がきけたのは良かったです。

自分自身は昼間保育の場所で働いているので、話についていけないか不安でしたが、昼間保育担当の立場で意見も言えてよかったです。もっと昼間保育担当の方にも参加して欲しいです。



帯広だより

守られるべき、大人が守ってやるべき事があると思います。

夜間保育所は日本中に必要ではないかと考えます。しかし夜間保育園があることすら知らない人たちが大勢います。夜間保育園連盟の全国大会は、夜間保育園の周知を広めることにも役立つと考え、日本各地で行い、より多くの参加を呼び掛け人から人へ伝えていくべきではないでしょうか。

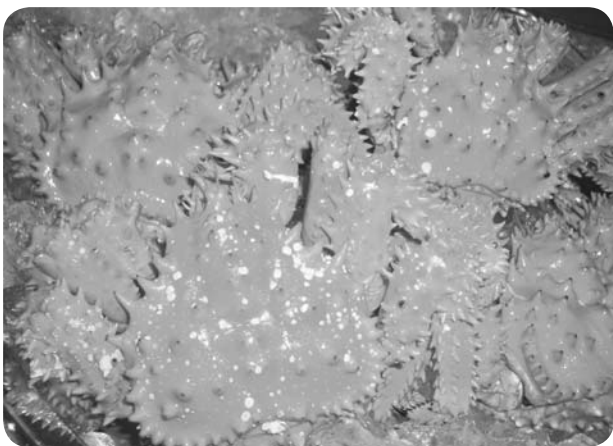
北海道は広いです。十勝も広いです。帯広も広いです。都会ではない南でもない北の田舎の帯広の良さを実感されませんでしたでしょうか



帯広市は、北は大雪山系、西は日高山脈に囲まれた広大な十勝平野の中央部に位置します。面積は、618.94平方メートルで、市街地は北に集中し、南は大規模畑作地帯が続いており、澄んだ青空、どこまでも続く雄大な大地に恵まれたまちです。

22年冬、私は沖縄で見たことのない物を聞いたことのないことを聞きました。同じ日本に住んでいても、文化も違えば事情も違う。そんな事を肌で空気で感じました。たとえば、那覇には市内を走るモノレールがあります。雪の降る北海道では、難しいという話です。建物の構造も沖縄の文化で後から2階ができるようにと工夫があり、北海道では雪に對しての対策、とにかく寒さを防ぐために壁に断熱材、屋根は雪が積もらないようにどこに落とすか、もしくは冬の間雪が積もっても耐えられる強度が求められます。

子どもたちは、住むところを選んで生まれては来ません、日本中どこに生まれても、どんな家庭に生まれても、最低限



北の屋台

帯広駅にほど近い飲食店が立ち並ぶ一角に、十勝ならではの食材等を用い、和食、洋食、中華、韓国風、ラーメンなどが楽しめる名物小路。帯広を元気にしたいという人々によって2001年（平成13年）に誕生した広場です。

お客さん同士すぐ仲良くなれる屋台の雰囲気は、帯広ならではの社交の場。夏は店の間口を開放してオープンな店構えとなり、冬は暖房の効いた3坪ほどの店内で、肩を寄せ合っていたかメニユー



を囲む情報あふれる趣となり、四季を通じて帯広ならではの味を楽しむことができます。また、地元の人や観光客、出張族など様々な人々が出会い、交流する場所でもあり、北の屋台はいつも耳寄りな口コミ情報にあふれています。

ばんえい競馬

開墾や農耕の担い手として馬が身近な存在であった明治期に神社の祭りで行われた「祭典ばん馬」がばん馬の始まり

です。かつては旭川、北見、岩見沢、帯広の北海道4都市で行われており、北海道遺産に選定されました。現在は「ばんえい十勝」として帯広市で唯一レースが開催されています。サラブレッドの約2倍ほどもある巨大なばん馬が、騎手を乗せた500kgから1トンの鉄ソリを牽引し、2箇所の障害(坂)を含む200mの直線コースでタイムを競います。レースは大迫力そのもので、ゴール線を通過する最後の最後まで目を離せないスリリングな展開。大どんでんがえしや大逆転が頻発するドラマが最大の醍醐味です。

橋本 充久仁



次回予告

次回《第24回全国夜間保育園経験交流研修会》開催予定予定

日時：平成24年（2012年）

1月14・15（土・日）

場所：神奈川県横浜市

新横浜プリンスホテル

神奈川には5箇所の夜間保育所があり、各園が集まって企画準備をさせていただいているそうです。

どうぞ、今からご予定ください

編集後記

今朝の帯広市の気温はマイナス7度・沖繩は19度でした。日本の広さ（？）を改めて感じられますね。
大変遅くなりましたが、漸く発行の運びとなりました。

各分科会担当の先生には、早くから原稿をいただいていたのですが、制度改革に伴う緊急役員会や役員改選の準備作業に追われ（言い訳です！）発行が大変遅くなりました。深くお詫びいたします。

二月三日は立春！春はそこまで来ている。ご自愛ください。

岡戸 淳子